

平成29年9月1日

教職員

各位

大学院生

医学系研究科長

医学獣医学総合研究科長

大学院特別セミナーの開催について（通知）

標記のことにつきまして、下記のとおり開催いたしますので御出席ください。  
なお、大学院生については、当日出欠の確認をしますので御承知おきください。

記

日時：平成29年9月11日（月）17:00～

場所：宮崎大学医学部総合教育研究棟1階 プレゼンテーションホール

講師：鍋島 一樹  
（福岡大学医学部病理学講座 教授）

演題：中皮腫診断 update：遺伝子変異に基づく免疫組織化学・FISHの応用

講演内容：悪性胸膜中皮腫（MPM）はいまだに予後不良の疾患であるが、予後改善のため早期診断の重要性が指摘されている。MPMの病理診断には（1）中皮細胞起源の確認、（2）良悪の確認が必要である。前者は免疫染色にて可能である。後者は現時点では、形態に加えて中皮腫の遺伝子変異を利用するものが最も信頼性が高い。FISH（fluorescence in situ hybridization）による *p16* 遺伝子のホモ接合性欠失と、免疫染色による *BAP1* 遺伝子産物（*BAP1* 蛋白）の核内発現欠失の証明である。共に反応性中皮過形成（RMH）との鑑別において特異度100%である。両者の併用によって診断感度は上昇する。しかし、FISHはどの施設でも簡単に行える手法ではないので、*p16* FISHの代用となる免疫染色に取り組んだ。*p16* 遺伝子と同じ9p21領域に存在するMTAP遺伝子の蛋白産物の発現が *p16* のホモ欠失と最もよく相関し、*BAP1* 免染との併用によって、RMHとの鑑別における感度も十分高くなる。実例と共に提示したい。